

ギャンブル等依存症問題の今を知り、看護を考えよう！～地域につなぐ当事者と家族支援のあり方について～

○吉井ひろ子¹⁾、坂本 拳²⁾、青柳とみ子³⁾、大野さゆり³⁾

1) 関西国際大学、2) 一般社団法人グレイス・ロード(ギャンブル依存症回復施設) 甲斐サポートセンター、

3) 公益社団法人 ギャンブル依存症問題を考える会・家族にギャンブル依存症者をもつNs部会

ギャンブル等依存症問題は、今後のカジノ開設を迎えるにあたり、ギャンブル等依存症者の増加が懸念されるなど、わが国の重要な社会問題と位置づけられています。ギャンブル等依存症や関連して生じる様々な問題について理解することは、予防等に有効と考えられます(厚生労働省,2020)。しかし、ギャンブル等依存症の疾病に関することやどこに相談すればよいかという具体的な方法について、全国的にまだ知られていないことが多いことや、相談機関や医療機関と自助グループとの支援連携においても、未だ十分ではないことが実状です。わたしたちは、研究者と当事者とその家族の会のそれぞれの立場から、地域連携につながる啓発活動をしています。また、去年は、ギャンブル等依存症者を家族にもつ

Ns部会を発足させ、ギャンブル問題に関する医療の架け橋になることを目標に全国各地での講師活動もしています。前半は、研究者よりギャンブル問題に関連した研究と実際の支援情報に関する最新の情報をお伝えします。中盤は、当事者とNs部会による当事者と家族の体験談を通して“私たちの考える依存症からの回復”についてお伝えします。最後に、地域連携における当事者および家族支援について、ご感想やご意見を交換したいと考えております。職場や家庭でも使える情報を手土産にさせていただけるよう準備をしていますので、関心が少しでもありましたらお足をお運びいただけますよう、よろしくお願いいたします。